



土壌・植物活性酵素液

MITAKA1000

有機JAS資材適合製品

MITAKA1000は、有害な化学物質を使用せずに厄介な病害虫を植物活性と土壌活性（地力アップ）の促進により自然に制御・抑制するリスク最小限の土壌・植物活性酵素液です。MITAKA1000の定期的な使用は、植物の代謝を促し活性を高めることで、病害虫等によるストレスに強くなり効果的です。

（本製品は肥料や土壌改良材などの役割りを補完する形で作用するものであり、普通肥料や農薬ではありません。）

MITAKA1000とは

パン酵母由来で複数の酵素活性を有する酵素溶液と、その他のアミノ酸やビタミン・ミネラル、有機酸を含む自然由来の製品です。

植物の養分吸収を促し、生育遅延などを防止し、植物の抱えるストレスを最小限に抑え生育をサポートします。その結果、植物の葉や花、実が健全でキレイに育ちます。

使用方法について

* 基本は葉面散布をお奨めしています

■ 10a(1反)あたりの標準使用量・希釈倍率

使用方法	標準使用量・希釈倍率の目安
葉面散布	1,000倍(300~2,000倍) ※1
土壌灌水	250ml(200~300ml) ※2
煙霧使用	300~500倍 ※3

【使用頻度の目安】

はじめは1週間に1回の頻度で2~3回ご使用頂き、その後、月に1~2回を目安としてください。

※1 葉の表裏や茎、根元にもまんべんなく浸るくらいに葉面散布してください

※2 原液の設定供給量となります(裏面をご参照ください)

※3 高温加熱式の煙霧機のご使用は避けてください

使用事例



▲上の写真は長ネギの圃場です。比較対照の圃場では品質の低下が進行して収穫することができませんでしたが、MITAKA1000を定期散布した圃場では常に健全な長ネギが育ち、無事に収穫することができました。



◀左の写真はMITAKA1000の定期散布で光沢を放つトマトの丈夫な葉の様子です。一般的にこんな葉になるとウドンコ病や葉カビ病も侵入できないといわれています。



【製造元】

株式会社 美創技研
 福岡県大牟田市天領町3-10-10
 TEL 0944-57-5324
 FAX 0944-57-5066
 E-mail:biso-kouso@bisougiken.com

【販売元】

【主要な成分の含有量等】 窒素全量0.015%、リン酸全量0.01%未満、加里全量0.086%

【取り扱い上の注意】

- 希釈の際には、必ず容器に先に水を入れ、その後原液を入れて混ぜてお使い下さい。
- 本品は飲み物ではありません。子どもの手の届かない場所に保管して下さい。
- 40℃以下で直射日光や高温多湿を避けて冷暗所にて保管して下さい。
- うすめた液を長時間おくと変質する恐れがあります。一度うすめた液は2週間以内に使い切って頂く事をお奨め致します。
- 投入直後には一時的に泡の発生が見られますが、時間の経過に従い自然に消滅します。
- 保管条件等によってまれに液の色が変色することがありますが、異臭(アンモニア臭)などがなければ品質に変わりはありません。
- まれに内容物が沈澱する場合がありますが、品質に問題はありません。

MITAKA1000 希釈倍率表

水	希釈倍率				水	希釈倍率			
	300倍	500倍	1,000倍	2,000倍		300倍	500倍	1,000倍	2,000倍
1L	3.3ml	2ml	1ml	0.5ml	50L	166ml	100ml	50ml	25ml
2L	6.6ml	4ml	2ml	1ml	100L	333ml	200ml	100ml	50ml
3L	10ml	6ml	3ml	1.5ml	200L	666ml	400ml	200ml	100ml
4L	13ml	8ml	4ml	2ml	300L	1,000ml	600ml	300ml	150ml
5L	16ml	10ml	5ml	2.5ml	400L	1,333ml	800ml	400ml	200ml
10L	33ml	20ml	10ml	5ml	500L	1,666ml	1,000ml	500ml	250ml
20L	66ml	40ml	20ml	10ml	1,000L	3,333ml	2,000ml	1,000ml	500ml
30L	100ml	60ml	30ml	15ml	2,000L	6,666ml	4,000ml	2,000ml	1,000ml
40L	133ml	80ml	40ml	20ml	3,000L	10,000ml	6,000ml	3,000ml	1,500ml

土壌灌水時の留意点

土壌灌水でご使用頂く場合は、その都度、農作物や時期に適した灌水量を定めて、その水に標準使用量の製品(設定供給量)をうすめてご使用ください。

なお、土壌灌水用ポンプの稼働時間を設定して土壌灌水を行われる場合には、設定時間の50%を経過した頃より、製品を水に溶かして薬液混入器を用いて供給してください。

例1) 10a(1反)あたりに水が500Lであっても、1,000Lであっても製品の標準使用量は250mlとなります。

例2) 10a(1反)のハウスにおいて、土壌灌水用ポンプを10分間稼働させる場合には、残り時間が5分を経過した頃より、製品250mlを水に溶かして薬液混入器を用いて供給してください。

※製品について、ご不明な点等ございましたら、ご使用前にメーカーもしくは販売店にお問い合わせください。